

週日の説教

金 大烈 神父 2010年10月22日(金)

《和解するために、自分を知りましょう - 自分で自分を赦しましょう - 》

どうすれば赦したくない人を赦せるかについて、以前何度か話したことがあると思います。今日の福音(ルカ 12・54 59)には、「見分ける」という言葉と「仲直り」という言葉が出てきましたね。皆様には、仲直りをしていない人がいるのでしょうか。仲直りをしたいとさえ思わない人がいるのでしょうか。「仲直りをしなければならぬ人はいません。」と思う人はいますか？ 誰も手をあげないということは、全員心にかかっている誰かがいる、ということですよね。あまり思い出したくない相手がいるということです。しかし今日の福音で、イエス様は「仲直りしなさい」と言いましたね。ではどうしたら「仲直り」ができるのでしょうか。「仲直り」は、別の言葉では「和解」と言います。では、「和解」はどうすればできるのでしょうか。これは、どうしたら「赦せるか」と同じ考え方になると思います。赦すためには、先ず自分に“赦された体験”が必要です。そして“赦された体験”をするためには、自分の中に入らなければならない、と以前私は申し上げました。

多くの方は、自分を赦さないまま生きています。ですから、誰でも自分の中に赦す必要のあるところを持っています。今ここに座っている皆様も、自分では自分を赦していないけれど、あまりそれを意識しないまま生きているではありませんか。たぶんそうだと思います。自分の心の中に、自分でも嫌いな部分がたくさんあると思います。しかし、自分の赦しでも誰の赦しでもかまわないのですが、その嫌いな部分が赦されていない、ということです。そのような、“自分でも嫌いな自分をいつも赦してくださるイエス様のみ心を体験しなければ、他の人を赦すことはできない”と思います。もっと簡単に言えば、“自分で自分を赦せなければ、他の人を赦すことはできない”ということです。以前、黙想会で話したのですが、先ず自分が自分を赦す作業、勤めをしなければならないのです。「仲直り」も同じだと思います。自分の中に入って、自分と仲直りをしなければ、他の人とはいつもぶつかります。私たちは、自分のことはよく知っている、よく見分けている、と思っています。しかし、自分をよく見分けられれば、この世の中にたくさんある、精神的な痛みはなくなると思います。自分を見分けることができないから、いつも戦い、争い、いろいろな憎しみが生じるのだと思います。

ソクラテスの「汝自身を知れ。」という言葉がありますね。有名な「無知の知」につながる言葉で、“人を批判する前に、自分の中に入って先ず自分自身を知りなさい”の意味です。つまり、“「仲直り」、「和解」をするためには、先ず自分をはっきり見分けて、自分と和解をすることが必要だ”ということです。

皆様、よく考えてください。ソクラテスはなぜ自分をはっきり知るように、と勧めたのでしょうか。全ての争い、全ての憎しみは、自分をはっきり知らないために生じることが多からず。ですから、なぜこの人をこんなに嫌いなのか、そういう思いが浮かんだら、先ずご自分の中に入ってみくださ

い。入ってみると、相手の人の嫌いなところが、自分の中にもあるのが見えると思います。もちろん、自分とは全く関係ない相手の罪の場合もあります。しかし、性格の問題でぶつかる場合には、必ず自分の中にもその問題があります。これはある意味で、私たちにやりなおす可能性を与える鍵ではないかと思います。

皆様、「雲が西に出るのを見るとすぐに、『にわか雨になる』」ことは見分けるのに、自分のことは分からないとしたら、やはり不幸ではないでしょうか。この世の中で一番難しいことは、自分を知ることだと思います。自分を知らないから、いつも精神的な病で泣いているのでしょうか。自分のことを知るためには、何が必要でしょうか。それは神様からの知恵だと思います。その知恵を求めましょう。そうすれば自然に和解、そして赦し合いができると思います。

ありがとうございました。